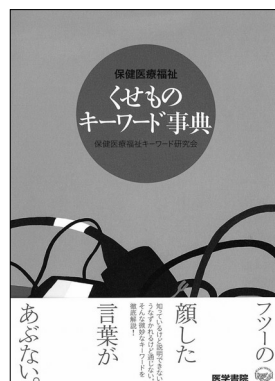


『保健医療福祉 くせものキーワード事典』

インタープロフェッション の教育・実践に 格好のテキスト

著者：保健医療福祉キーワード研究会
定価：2,100 円(本体 2,000 円+税 5%)
発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



「社会的入院」「ADL」「問題行動」など、わかっているようでわからないことば、専門領域によって意味が違ってしまふことば、使われる文脈によってニュアンスが変わることばがある。

本書で取り上げられている 28 のキーワードは、理解を深めるほど、簡単に説明することができない奥が深いことばである。「ことばの風景」と題したコラムで、キーワードが使われる現実の場面が描き出されている。こうした現実の文脈の中で使われていることばに触れることにより、読者は単なることばの理解に留まらず、状況を適切に理解し、ケアのあり方を考えることができる。執筆者の立場が明確に示されている場合もあり、よりよいケア実践を目指すうえで重要となる議論の糸口もみえる。きちんと定義されていることばには適切な出典が示され、類似語についてもわかりやすい説明が記されている。本書を通して保健医療福祉系の学生は、現場での実践を知ることができ、患者や利用者、他職種と会話する際に役立つ情報を得ることができる。在宅ケアの現場で働く専門職は、マスコミや他の専門領域で常用されてきたことばの背景を知り、他の専門職との連携が容易になるだろう。信頼し合える関係を築くうえで、共通のことばを使うことは重要である。何気ない専門用語が越え難い溝を作ることはよくある。

「障害受容」は勧めるべきもの、「生活習慣病」

は改めさせるべきものといった漠然としたニュアンスを、それぞれのことばはもっている。しかし本書を読むと、これらのことばの隠れた攻撃性や、医療提供者側の身勝手な言い分に気がつく。病気が治っても障害が残ることを知り落胆している人に障害受容を促し、脳卒中や心筋梗塞になるのではないかと不安をもつ人に生活習慣を変えることを迫るのは、問題の原因は自分にあるのだから、もっと努力しろと言っているのと同じである。障害があっても活動でき、参加できる社会、みずからが望む生活習慣を選べる社会をつくる努力も必要なのである。

「ADL(日常生活活動)」を動作ができるかできないかだけの問題としてみるのではなく、当事者の生活状況で行われる日常の活動は何なのか、ADLがそのような状態なのはなぜなのかについて、入院や入所中、在宅ケアでの様子をチームのメンバーが話し合うことの必要性がよく理解できる。「虐待」の章では、障害をもつ前から妻に暴力をふるう夫が介護者である妻を殴る、障害をもつ娘に介護されている母がほったらかしにされている、介護のために同居している家族が高齢者のお金を使ってしまう、など多様な事例が示されている。

本書は事典として読むだけでなく、異なる専門職が集う勉強会での教材としても活用できると思う。